

—杉本美術館最終展—
絵に生きた画家 杉本健吉

主な展示作品

鏡の自画像	1935	72.8 × 28.0 cm	油彩
花	1926	23.8 × 25.6 cm	油彩
籠静物	1928	31.4 × 40.8 cm	油彩
東別院縁日の賑わい	1928	31.7 × 40.9 cm	ポスターカラー
植物園写生	1940	72.7 × 60.6 cm	油彩
大仏殿興福寺遠望	1944	73.0 × 53.0 cm	油彩
阿修羅像	1960	45.2 × 32.9 cm	木炭
アトリエ	1960	91.0 × 116.8 cm	油彩
津島天王祭	1961	41.0 × 120.0 cm	油彩
半田赤煉瓦工場	1997	62.5 × 96.5 cm	水彩
美浜の庭	2001	162.0 × 130.0 cm	油彩
北海白塔	1980	53.4 × 74.0 cm	水彩
蘇州	1980	37.0 × 53.0 cm	水彩
ガンジス河浴沐	1962	116.8 × 54.5 cm	油彩
サンポール路地	1979	35.4 × 24.5 cm	ゲーマト
アッシジ	1962	90.9 × 72.7 cm	油彩
岸田劉生 舞妓里代模写	1974	26.5 × 21.5 cm	油彩
牡丹園のトム	1986	97.5 × 64.3 cm	墨彩
獅子文壺牡丹	1988	73.0 × 53.0 cm	油彩
醉芙蓉	1969	73.0 × 52.5 cm	油彩
アトリエ (下北沢)	1952	91.0 × 116.8 cm	油彩
新・平家絵物語屏風	1986	前半・六曲一双	
〃	1994	後半・六曲一双	
六興版 新平家物語屏風	1972	六曲一双	
私本太平記屏風	1990	四曲一双半	
会津八一歌屏風	1991	六曲半双	

このほか「轡」「緞帳図案」など、さまざまな作品もあわせて展示します。
※展示作品は変更させていただく場合もありますのでご了承願います。



植物園写生

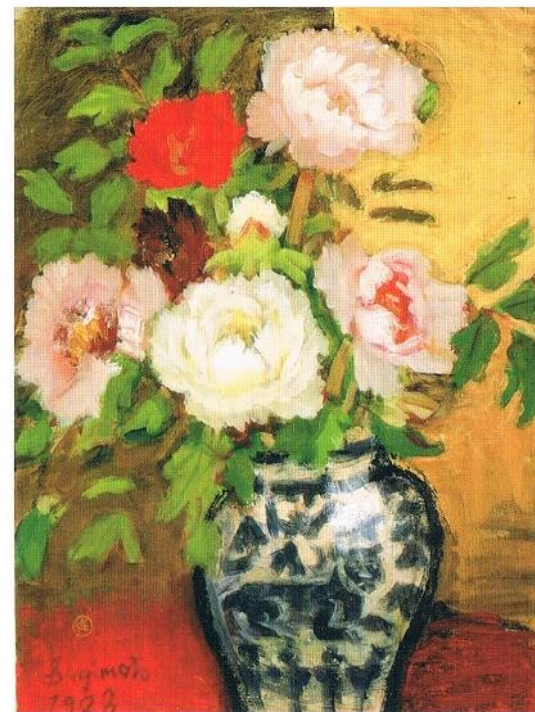


杉本美術館

〒470-3232 愛知県知多郡美浜町美浜緑苑一丁目12番1号
電話(0569)88-5171/FAX(0569)88-5591

—杉本美術館最終展—
絵に生きた画家
杉本健吉

2021.9.16 (木)～10.31 (日)



獅子文壺牡丹

 杉本美術館

ごあいさつ

昭和62年(1987)年4月の開館から、30年余にわたって杉本健吉の作品をご鑑賞いただいていた杉本美術館は、この10月末日をもって、閉館することになりました。この間に杉本美術館にお越しいただいた、たくさんの皆様、ご支援ご協力をいただいた皆様に、あつくお礼申し上げる次第です。

この杉本美術館での最終展示として「絵に生きた画家杉本健吉」展を開催いたします。

明治に生まれ、大正、昭和、平成に至る98年の生涯にわたり、絵を描き続けた杉本健吉の画業は、その幅広さも作品の点数でも膨大なものがあります。名古屋に生まれ、津島で少年時代を過ごした杉本健吉は、図案家として活躍するとともに画家としての道を歩みました。東大寺の上司海雲の計らいで奈良での制作を始め、戦後は会津八一や志賀直哉をはじめ、さまざまな方々と交流を深めることができました、また吉川英治の「新・平家物語」「私本太平記」などのさし絵も描きました。自由に外国に行けるようになると、外国に出かけ、さらに画業を広げました。

その一方で、劇場の緞帳など亡くなるまで図案家としての仕事も続けました。杉本美術館ができてからは、ここでの制作を始め、自宅との行き帰りに目にした風景を描くようになり、寺院の「幡」の形式による作品もたくさん制作しました。

杉本健吉の生涯にわたる作品は、その分野の広がりも作品の数も膨大なものがあり、とてもその全貌を今回のみの展示では、ご紹介できるものではありません。それでも、絵に生きた画家杉本健吉の画業の一端は、ご紹介できるのではないかと思います。

杉本美術館の自然豊かなまわりの景観とともに、最終展示「絵に生きた画家杉本健吉」展をご鑑賞いただければ幸いです。

2021年9月

公益財団法人 杉本美術館



鏡の自画像



仏頭



酔芙蓉



サンポール路地



新平家物語屏風から「加冠」



私本太平記屏風から「湊川帖」



美浜の庭